

米国出張について

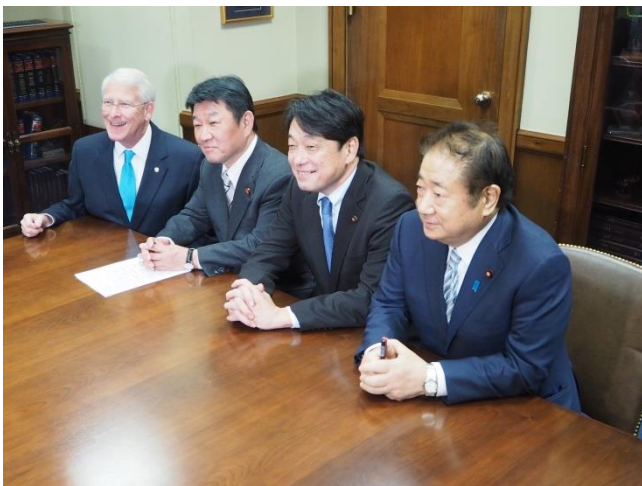
平成 29 年 1 月

1 月 17 日（火）から 19 日（木）の日程で米国・ワシントン D.C. に出張しました。大統領就任式の直前、2 日間にわたり上院議員や有識者と意見交換を行いました。

1. 上院議員との会談

共和党所属でトランプ大統領を支持したロジャー・ウィッカー上院議員（軍事委員会海軍力小委員長）と日米関係、TPP などについて意見交換しました。

日本は駐留米軍経費を 7 割以上負担しており、ドイツの 3 割や韓国の 4 割と比べて高い割合であると私が強調したのに対し、ウィッカー議員は「重要な指摘」と応じました。



2. 有識者との会談

(1) マイケル・グリーンCSIS上級部長との会談

トランプ新政権の政策や日米関係などについて、意見交換を行いました。新政権の外交政策について、予見可能性の低さ（Unpredictability）が今後の国際関係にどのような影響を及ぼすかという点について、有意義な議論を交わしました。



(2) ストローブ・タルボット ブルッキングス研究所長との会談

トランプ新政権の政策、TPP、ロシア・中国・北朝鮮情勢などについて、幅広く意見交換しました。

「良好な日米経済関係を維持・発展させるためには狭い通商関係の交渉ではなく、AI、ロボット等の新技術、サイバーセキュリティ、エネルギー分野での日米協力やアジア各国でのインフラ投資での日米協調といった大きな枠組みでの議論が、より生産的」という私の意見に、先方も同意していました。



(3) リチャード・アーミテージ元国務副長官との会談

アーミテージ氏は、安倍総理がトランプ新大統領と早期に会談したことを賞賛し、「日米関係は今後も揺るぎないものと確信している」と発言。新政権においても、日米関係については、日米同盟の深化などこれまでのさまざまな取組みが適切であったとの評価がなされ、今後、いかに協力の枠組み、幅を拡げていくかが課題になるというのが共通の認識でした。



(4) ケネス・ワインシュタイン ハドソン研究所所長との会談

トランプ新政権に近いワインシュタイン所長と新政権の政策や今後の動向などについて意見交換をしました。所長は、「安倍総理とトランプ次期大統領の両首脳間で日米関係がさらに深化していくと確信している」と述べた上で、安倍総理の早期訪米への期待を寄せました。

